

# To Forward

## ～前に向かって～

2024年3月1日

時が経つのは早いもので、3月がやってきました。日本に住む私たちにとっては、年度が終わり、新しい学年、新しい環境での生活に向けて準備をする時期ですね。1年の学びのまとめをしたり、次のステップに進むための目標を決めたりと、慌ただしさの中にも希望の芽が膨らんでくるような気持ちを感じている人も多いのではないのでしょうか。

先日、学校の掲示板に朝日新聞の天声人語を掲示しました。そこには、みなさんのような若者の未来に勇気を与える文が綴られていました。

『ドラえもん』ののび太は、何をやってもいいことがない。テストは0点だし、犬にかまれるし、買ったばかりの漫画をジャイアンに取り上げられる。

でもあんなに何度もつまずきながら、決してあきらめないのが、のび太のいいところだ。年に数回は「今の自分より少しはましになりたい」と一念発起し、宿題をやろうと机に向かってママを驚かす。考えてみれば、芯は強いのかも知れない。

作者の藤子・F・不二雄さんが雑誌で、くるくる回る床屋の看板を人に例えていた。上へ上へと夢を追いながら、実は同じ場所にいる。「しまいには、その『上昇の夢』さえ忘れてしまう。そうじゃなくて、挫折しても明るく夢を見続ける『自分を見捨てない人』に共感してほしい」。きっとのび太のことだろう。

卒業シーズンが近づく。多くの高校生は、3月上旬に別れの時を迎える。希望の道へ進む人、涙をのんだ人。さまざまだろう。この一歩で残りの人生も決まると、若いうちは思うかもしれない。でもそんなことはない。大事なことは「自分を見捨てない」ことだ。

ドラえもんから眼鏡型の道具「ファンタグラス」を借りたのび太は、童話さながらに、動植物と心を通わせられるようになる。大事に育てたタンポポから、綿毛が最後にひとつ、春風に吹かれて飛んでゆく。

どこへ行くつもり？ のび太の問いに綿毛が答える。「わかんないけど…、だけどきっと、どこかできれいな花を咲かせるよ」。旅立つ若者たちに幸あれ！

これは、高校生だけではなく、全ての人たちへのはなむけの言葉だと思います。『この一歩で残りの人生も決まると、若いうちは思うかもしれない。でもそんなことはない。大事なことは「自分を見捨てない」ことだ。』自分を見捨てない、つまり「自分を大切にすること」です。人権学習の礎にあるのは、「自分を、人を大切にすること」という気持ち。人は失敗してしまったと思うと自信を失い、自分を大切にすることができなくなり、ひいては他の人も大切にできなくなります。それは、人権を大切にできる土台が崩れてしまうことにつながってしまうと、この記事は教えてくれました。最近の社会は失敗を認めない風潮が強く、若い人たちが失敗を恐れながら生活しているように感じます。でも、何度も失敗しながら、何度も立ち上がり、転んだ家族や友に手を差し伸べ、笑って新しい生活を送ってほしいと心から願っています。